

国立病院機構熊本医療センター

くまびょうNEWS



写真撮影 江角 誠

【特集】

泌尿器科の取り組み

- VOICE
- くまびょう TOPICS
- いま、何が研究されているか 診療放射線技師
- 研修医レポート
- 研修のご案内
- 研修日程表

基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

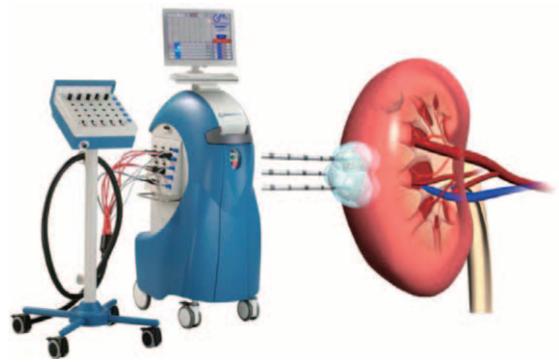
運営方針

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. 良質で安全な医療の提供 | 4. 教育・研修・臨床研究の推進 |
| 2. 政策医療の推進 | 5. 国際医療協力の推進 |
| 3. 医療連携と救急医療の推進 | 6. 健全経営 |

患者様の権利

1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります

クライオセラピー



●凍結治療とは・・・腫瘍に専用のニードルを刺して、冷凍手術器（CryoHit）で-50度以下まで急速に冷却して凍結し、がん細胞を破壊し死滅させる治療法です。カチンコチンに凍らせたバラの花は軽く触れただけで粉々に壊れてしまう。まさにそのようなイメージで治療を行います。

局所麻酔で行うことが可能であり、低侵襲な治療として注目されています。日本では大学病院を中心に導入されており、当院が全国で26施設目、国立病院機構では初となります。

～クライオの流れ～



①うつ伏せでCT撮影

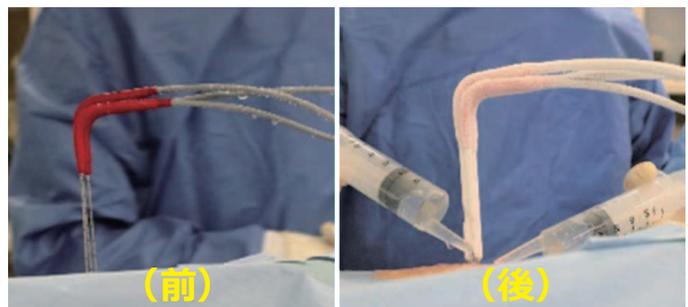


②穿刺予定部位の確認



③ニードル穿刺

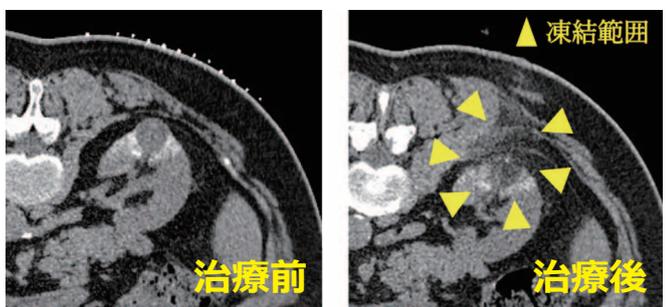
CTで位置を確認しながら、凍結針をがんに刺していきます。



④-50℃以下に凍結

凍結15分、解凍5分を1サイクルとして2回行います。

凍結中は皮膚が凍傷にならないように温生食をかけ続けます。がんは体表に出ている凍結針も凍りつく程の低温環境下に置かれ、破壊されていきます。



⑤治療終了

がんが凍結領域に十分囲まれていることを確認。

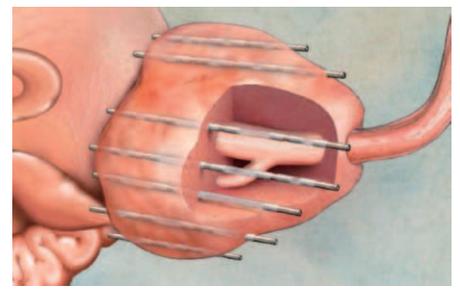
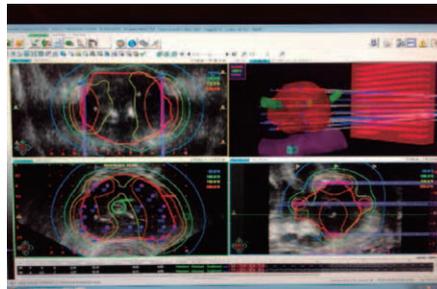
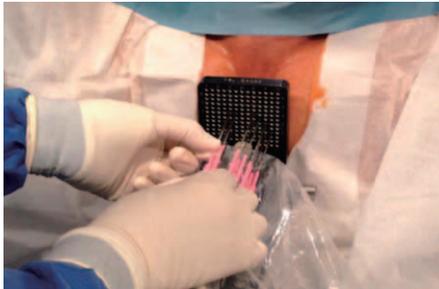
腎がん（4 cm以下）の標準治療は手術による摘出術ですが、手術リスク症例（高齢、合併症、単腎や多発腫瘍）や凍結治療を希望される方が適応になります。治療成績は、摘出手術よりやや再発率が高いようですが、5年生存率は95%以上とほぼ同等です。

※現時点での保険適用は4 cm以下の腎臓がんのみですが、2016年に凍結治療機が医療二重の高い医療機器に承認されたため、今後は前立腺がん、肺がん、肝がん、乳がん、癌の骨転移、子宮筋腫等への保険適用拡大が期待されています。

前立腺を切除しない密封小線源治療

ブラキセラピー

前立腺がんに対し、コンピューターを駆使して3次的に小線源の留置位置や線量を計算しながら行う精密な放射線治療で、組織内照射と言われます。全摘出術に比べ、尿失禁や男性機能の低下が少なく、入院期間も短期間で済みます。

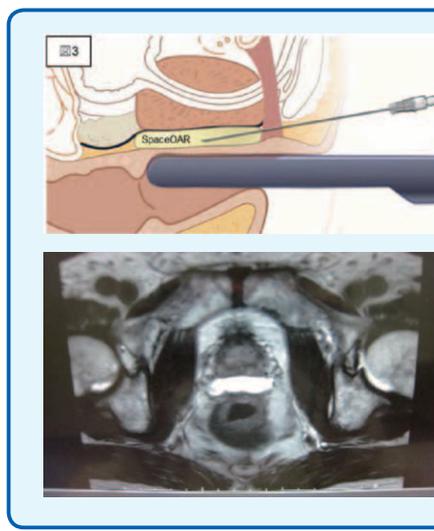


超音波画像を見ながら会陰（陰囊と肛門の間）から前立腺に向けて針を刺して、その針を通して線源を前立腺内に挿入します。針を挿入する位置や本数、線源を留置する場所や個数は、3方向から見た超音波画像を使用し、コンピュータ（治療計画装置）で計算して決定します。



前立腺内に挿入された線源のX線写真

前立腺に留置されたヨウ素125を密封したシードは約1年間に亘り放射線をがん病巣に照射します。放出される放射線のエネルギーは非常に弱く、そのほとんどが前立腺内で吸収されます。現在まで224例の方がこの治療を受けられ、PSA再発は2例のみです。



2018年7月より放射性直腸障害（血便・潰瘍等）低減を目的にスペースOARシステム（ハイドロゲルスパーサー）を全例に導入しました。これは前立腺と直腸の間にハイドロゲルスパーサーを留置することにより前立腺と直腸を引き離し、直腸線量を低下させる画期的な方法です。ハイドロゲルスパーサーは半年から1年で自然吸収されます。

私たち泌尿器科外来スタッフがサポートします



地域医療連携室室長
泌尿器科部長
菊川 浩明



泌尿器科副部長
前田 喜寛



医師
矢野 大輔



医師
銘苅 晋吾



医師
鮫島 智洋



医師
近浦 慶太



医師
西澤 秀和



看護師
鎌畑 史香



看護師
浜崎 美紀子



看護師
池田 佳奈



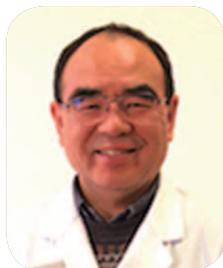
看護師
柴田 喜美子

VOICE

登録医の声

医法)博光会
御幸病院

院長 西上 和宏



◆ 貴院のアピールをお願いします

当院では急性期病院と在宅、クリニックや施設への橋渡し機能を強化しております。特に心不全診療においては、LTAC心不全センターを設立し、多職種専門チームにより在宅復帰までの支援をしております。脳卒中や骨折後のリハビリにも力を入れており、円滑な社会復帰を行っています。脊椎圧迫骨折では貴院の救急外来から当院に直接転院（入院）出来る体制がありますので、夜間休日を問わず御連絡いただければ幸いです。

◆ 先生の趣味・お勧めスポットを教えてください

休みの日は、緑の多い路を散歩することが楽しみです。全国縦断お勧め散歩コースマップが出来てを願っており、明治時代のように歩いて旅行するのが夢です。近所のお勧めスポット（散歩コース）としては、熊本県庁～熊本県立図書館～江津湖～熊本動植物園があげられます。

◆ 当院へのご要望をお聞かせ下さい

熊本の救急医療を担い、精神科を含めて幅広い診療科に御対応いただいていることに深い感銘を覚えます。当院とはやや離れた地理にありますが、高齢者心不全、脳卒中、骨折、緩和ケアで更に一層たくさんの患者様を当院に御紹介いただければと心から願っています。

【診療科目】

内科 循環器内科 呼吸器内科 消化器内科
腎臓内科 整形リハビリテーション科 リハビリテーション科
神経内科 心療内科 アレルギー疾患内科
漢方内科 緩和ケア内科

【診療時間】

午前 9:00～12:30 午後 13:30～17:30

【休診日】

土曜・日曜・祝日

【住所】

〒861-4172 熊本市南区御幸笛田 6-7-40

【TEL】

096-378-1166

地域医療連携室直通電話をご利用下さい

先生方には日頃より患者様の御紹介を頂きありがとうございます。

当院は、地域医療連携室へのお電話が繋がりにくいのご指摘を受け、直通電話を設置致しております。

この直通電話は、関係医療機関の皆様から頂くお電話のみをお受け致します。患者様からの直接のご相談は、代表電話を通じて承る予定です。

医療機関の皆様のための直通電話になります。ホームページ等では公表いたしておりませんので、ご了承下さい。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

地域医療連携室室長 菊川 浩明

地域医療連携室直通電話

096-353-6693

月～金（祝日を除く）AM 8:30～PM 17:00



くまびょう TOPICS

5/15(水) | 第101回 特別講演 開催

【筆者】 整形外科部長/リハビリテーション科部長：福元 哲也

当院において『第101回特別講演』が開催されました。今回は熊本大学大学院生命科学研究部整形外科学講座教授の宮本健史先生に「骨粗鬆症 up to date」と題してご講演いただきました。今回は101名もの参加があり、大変勉強になりました。

- 講師：熊本大学大学院生命科学研究部整形外科学講座教授 宮本健史
- 演題：「骨粗鬆症 up to date」
- 参加者：101名

【場所】 研修センターホール



5/15(水) | 認定理学療法士誕生 (脳卒中領域にて資格取得)

【筆者】 理学療法士：榮 彩人

3月2日に認定理学療法士（脳卒中領域）の試験を受け、5月中旬に合格の通知を頂きました。脳卒中のリハビリは協働が不可欠で、その一助になればと思います。脳と身体と環境がキーワードです。



5/26(日) | 看護部インターンシップ 開催

【筆者】 教育研修係長：榊原チハル

来年度採用看護師向けのインターンシップを3回開催致しました。宮崎や佐世保、佐賀、福岡、岡山、沖縄から17名の看護学生の皆さんが最後まで熱心に参加してくださいました。

【場所】 全病棟



5/25(土) | 第152回 公開看護セミナー開催

【筆者】 教育研修係長：榊原チハル

看護部では公開看護セミナーを開催しました。大分より石本田鶴子先生を講師にお招きし、ご講演いただきました。私たちは、チーム医療をよくするため、信頼関係を築くためにコミュニケーションが必要だと思っていました。しかしながらその先には、自分の人生を豊かにするために、コミュニケーションを学んでいるのだと実感しました。ワークも多く、院内外の参加者が初めて顔を合わせましたが、大変盛り上がりしていました。ほめる、認める、ねぎらう、励ます、感謝するという、相手を認める力を身につけ、一日3人→10人→かかわった人すべてに声をかけ実践していきたいと思えます。

- 講師：石本田鶴子（コミュニケーションオフィスTaz/大分）
- 演題：「円滑なコミュニケーションのための信頼関係の築き方～その実践スキル～」
- 参加者：103名（内：院内60名）

【場所】 研修センターホール



6/10(月) | 看護師特定行為研修開講式を挙行

【筆者】 副看護部長：井上 範子

熊本県で初めて、当院が特定行為研修指定機関として指定され、6月10日開講式を行いました。令和元年看護師特定行為研修受講生は、これから7カ月の研修が開始となります。

【場所】 研修センターホール





病院増改修
整備工事
NEWS!!!

Step 3 躯体工事中

外来増築棟は、ようやく4階の床部分までの躯体が建ち上がりました。以前、「コンクリートの打設において雨は天敵！」ということをお話ししましたが、梅雨時期を迎え、現場では天気予報を気にしながら作業を進めているところです。

皆さま方へはいろいろとご不便をおかけしているところですが、引き続き、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



今後のスケジュール予定

※スケジュールは、今後の工事進捗状況によって変更する場合があります。

増築棟新築工事：Step 3

～2020年1月

外来棟改修工事：Step 4 2020年2月～2020年11月

企画課 業務班長
安藤 隆幸
Takayuki Ando



新任職員紹介

外科

こすみ けいすけ
小澄 敬祐



6月より外科に赴任して参りました小澄敬祐と申します。熊本医療センターでの勤務は初めてです。患者様の気持ちを第一に考えながら、最善の治療を提供できるよう努めて参りたいと思います。宜しくお願い致します。

美術作品のご案内

当院では、患者様の心の安らぎを目的とした病院装飾について、当時熊本県美術家連盟会長をなさっていた春口光義先生にご相談致しましたところ、「患者さんの為にご協力致しましょう。」と、趣旨に賛同していただいた同連盟の多くの先生方から美術作品を寄託していただいております。

すばらしい作品を展示してございます。随時ご紹介させていただきますので、ご来院の際には心を癒していただけますと幸いに存じます。
(院長 高橋 毅)

福田 眞

1935年 熊本県生まれ
熊本県立済々黈高等学校、熊本大学卒業
1971年 熊本県美術家連盟創立会員
1972年 熊本県美術協会会員

個展 多数開催

現在 新象作家協会会員・九州新象展事務局、
熊本県美術家連盟・連盟展委員長、
熊本県美術協会・総務委員、
熊本県文化協会会員

「青の構成」

油彩・80号F型



4階地域医療連携室入口向かって左側にあります。

2019年 二の丸かんかんカフェのご案内

患者様やご家族、肝臓病に関心をお持ちの方はお気軽にご参加下さい♪



日時: 2019年7月27日(土) 13時~15時

会場: 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター研修室2 (参加無料)

1部: 肝臓の知識、最新の話について

講師: 国立病院機構熊本医療センター消化器内科部長/肝臓病専門医 杉 和洋

2部: 語らいの時間

治療の体験談や、患者様やご家族同士での意見交換、医療スタッフを交えて日頃かかえている悩みについてお茶を飲みながら気軽に話し合える時間です♪

※事前に消化器内科で予約をお願いします。

お問合せ: 国立病院機構熊本医療センター消化器内科外来受付 (TEL: 096-353-6501 内線 3060)

Dual Energy CT を用いたヨード定量精度および位置依存性に関する検討

診療放射線技師 花田 広憲

【目的】

当院ではCT装置更新により2管球のSiemens社製SOMATOM Drive（以下：Drive）が導入され、2管球によるDual Energy CTが可能となりました。また既存のSiemens社製SOMATOM Definition AS+（以下：AS+）もバージョンアップし、Split Filterを用いたDual Energy CTが可能となりました。しかし、それぞれの撮影原理が異なるため、物質分別するうえで精度の違いが生じることが考えられます。また、位置依存による精度の違いも懸念されます。そのため、ヨード密度画像から求めたヨード濃度の定量解析と同スライス面内における位置依存の関係について装置間で検討しました。

【方法】

Multi Energy CT Phantom（Gammex社製）を用い、ヨード濃度に関してはヨード濃度2、5、10、15mg/mlの4種類のロッドを使用しました。撮影条件は当院の腹部撮影と同等程度のCTDIvolである15 mGyで一定にし、AS+、Driveでそれぞれ撮影しました。

①ヨード定量精度における装置間の比較検討

Phantomの中央に各ヨード濃度のロッドを設置し撮影を行いました。なお、撮影はそれぞれで5回ずつ行い、撮影した画像を画像解析装置Syngo.viaにて、ROI3.5mm²でのヨード濃度を測定しました。

②位置依存におけるヨード濃度の検討

Phantomの中央、中央から水平方向に75 mm、140mmの3か所の点でロッドの位置を変化させ撮影しました（Fig.1）。撮影はそれぞれの配置につき5回ずつ行い、撮影した画像を画像解析装置Syngo.viaにて、ROI3.5mm²でのヨード濃度を測定しました。

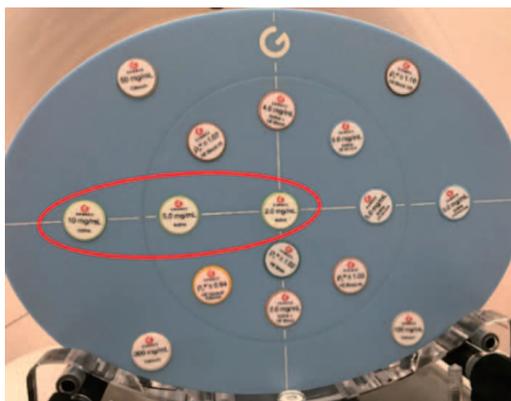


Fig.1 Phantomにおけるロッドの配置

【結果】

装置間の比較におけるヨード濃度の定量精度は、5mg/mlではDriveの方がAS+と比べて誤差が小さくなりました。一方で10、15mg/mlでは有意差は認められませんでした。代表的なものを以下に示します（Fig.2）。位置依存における検討ではDrive、AS+ともにどのヨード濃度でもアイソセンタから140mmの点で誤差が大きくなりました。代表的なものについて以下に示します（Fig.3）。

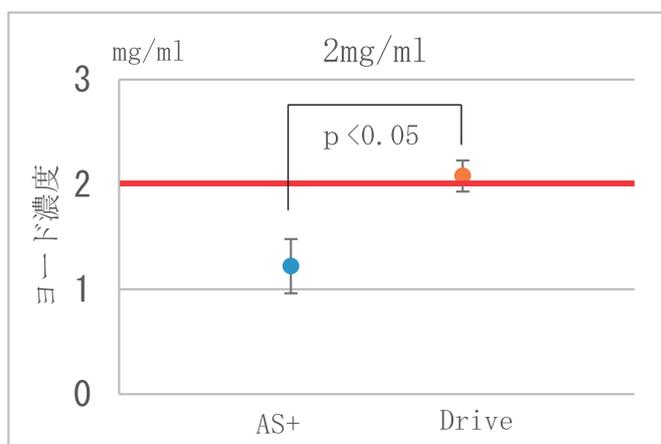


Fig.2 ヨード濃度 2 mg/mlでの装置間の比較

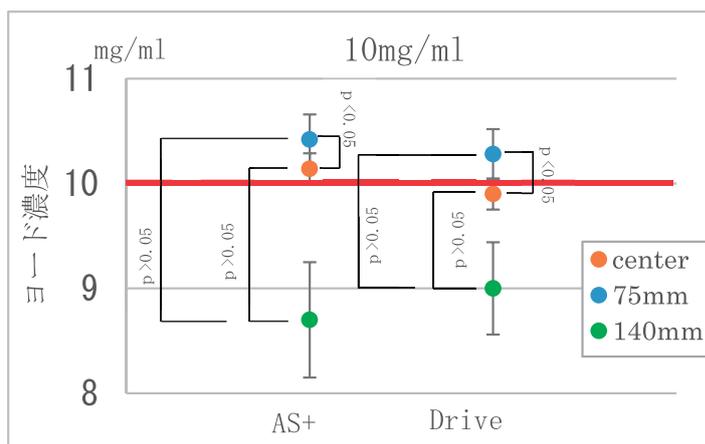


Fig.3 ヨード濃度 10 mg/mlでの位置依存性

【結論】

ヨード定量精度においてSOMATOM Driveの方がSOMATOM Definition AS+に比べて精度が高いことが示されました。位置依存性において、両装置間で同様の結果を示し、ガントリ辺縁部では定量精度が低下することが示されました。

研修医レポート

臨床研修医

石川 喜仁



こんにちは。研修医1年目の石川喜仁と申します。熊本大学医学部を卒業し、4月より熊本医療センターにて初期臨床研修をさせていただき早2か月が経ちました。

私はまず外科から研修をスタートし、この原稿を書いている週に外科の研修を終了します。初めての一人暮らし、そして自分が学んできた大学病院とは違う病院という慣れない環境の中、生活スタイルがハードなイメージのある外科が最初の研修科ということで、今まで学生でたるみきった生活をしていた私には相当なストレスがかかっていたように思います。

確かに病院自体に慣れるまで1か月ほどを要し、特に指導医の先生には多大なご迷惑をおかけしましたが、怒ることなく丁寧にいろいろなことを教えてくだ

さいました。また賑やかな同期に恵まれたことから、耐え難いストレスで枕を涙で濡らす事態にならなくて済んだのだと思っております。

外科の先生方は本当に面白い方ばかりで毎日楽しく過ごしながらも成長させていただいております。縫合手技に関しては、初めは1針かけるだけでも相当な時間を費やしていた私ですが、先生方の丁寧なご指導のおかげで今では2か月前の自分が見たら信じられないほどに成長できたのではないかと自負しております。(もちろん2年目の先輩方と比較すると私の技術は相当劣っていますが。)

病棟業務や諸々の作業に関してもやっと板についてきたように感じます。しかし全て自分の力だけでどうにかできるようなものではなく、一緒に外科で研修している同期やコメディカルのスタッフの方々の協力なしでは成立しないことを改めてこの身で感じる事ができました。

まだ就職して2か月でわからないこともたくさんありますが、この風通しのよい職場でたくさんの方に支えられながらも自分なりに一人前の医師に少しでも近づけるよう精進して参りたいと思っております。2年間どうぞよろしくお願いいたします。

臨床研修医

荒木 裕大



こんにちは。研修医1年目の荒木裕大と申します。宮崎大学医学部を卒業し、4月から熊本医療センターで初期臨床研修をさせていただいております。始まってまだ2ヶ月と慣れない環境の中、先生方やスタッフの皆様のおかげでようやくながらも頑張っています。

私は4月に消化器内科から研修をスタートしました。カルテの書き方どころか使い方も分からず、ましてや診察や手技などわかるはずもないまま研修が始まりましたが、指導医を始め、とても優しい先生方に手取り足取り教えていただいて、大変ながらも充実した研修の日々を送らせていただきました。内視鏡や腹水穿刺、

ERCPなど多くの手技や、腹部診察の方法、消化器疾患の食事や体液の管理の仕方など多くを経験させていただきました。特に腹部エコーでは、毎日多くの患者様の検査をすることができて、とても勉強になりました。また、勉強以外でも、飲み会など開いていただき、オンとオフの切り替えの大事さも学ばせていただきました。

現在は循環器内科で研修させていただいておりますが、内容も全く異なり、また1からのスタートで先生方にご迷惑をかけてばかりですが、熱い指導のもとで成長できますよう努力していく所存です。

これからも様々な科で研修をしていく中で、数多くのご迷惑をおかけするとは思いますが、一つ一つ物事を身につけて、お役に立てるよう精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



研修のご案内

第245回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶令和元年7月8日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 内科症例検討 診療で遭遇した興味ある症例の検討を行います。
- 「第1症例 リウマチ性多発筋痛症様の症状を呈したStreptococcus salivarius菌血症の1例」
国立病院機構熊本医療センター総合診療科 上村剛史
- 「第2症例 メトホルミン関連乳酸アシドーシスに対して積極的な血液透析で救命しえた1例」
国立病院機構熊本医療センター救命救急科医長 楯 直晃
- 「第3症例 炎症性腸疾患の最新の治療について」
国立病院機構熊本医療センター消化器内科 志茂田美紀

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター総合診療科部長 辻 隆宏 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

第200回 三木会（無料）

（糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座1.0単位認定〕

〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定〕

日時▶令和元年7月18日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：田尻クリニック 東 輝一朗 先生

1. 「高血糖緊急症の診療」
国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 西川武志
2. 「糖尿病大血管合併症に対する脂質異常症の管理を考える」
医療法人蘇春堂 統括院長 小堀祥三 先生

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 西川 武志 TEL 096-353-6501(代表) 内線5441

第135回 総合症例検討会（無料）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶令和元年7月24日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

- テーマ：「難治性気管支喘息として治療中にショック状態となった80代女性」 (70代 男性)
- 臨床担当) 国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科部長 名村 亮
- 病理担当) 国立病院機構熊本医療センター病理診断科部長 村山寿彦
- 国立病院機構熊本医療センター病理診断科 武藤礼治

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線2630 096-353-3515(直通)

第23回 診断と治療－最新の基礎公開講座－

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶令和元年7月27日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：新町いえむらクリニック 院長 家村昭日朗 先生

演題：「血球増加症の診断と診療の進歩」

1. 血球増多を見たとき考えること
国立病院機構熊本医療センター血液内科医長 三井士和
2. 慢性骨髄性腫瘍とは
国立病院機構熊本医療センター血液内科副部長 榮 達智
3. 慢性骨髄性白血病の診療について
熊本保健科学大学保健科学部医学検査学科教授 川口辰哉 先生

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線2630 096-353-3515(直通) FAX 096-352-5025(直通)

2019
7月

研修日程表

国立病院機構熊本医療センター
地域医療研修センター

7月	研修センターホール	研修室
1日(月)		
2日(火)		
3日(水)		
4日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー	
5日(金)		
6日(土)		
7日(日)		
8日(月)		19:00~20:30 第245回 月曜会(内科症例検討会)(研2) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]
9日(火)		
10日(水)	17:30~18:30 第117回 国立病院機構熊本医療センタークリティカルパス研究会(公開)	
11日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 18:30~20:00 熊本県臨床衛生検査技師会一般検査研究班月例会	
12日(金)		
13日(土)	8:50~16:20 第34回 メディカルスタッフのための人工呼吸セミナー (1) 呼吸生理の知識と血液ガスの見方 琉球大学大学院医学研究科救急医学教授 久木田一朗 先生 (2) 人工呼吸を要する各種病態とフィジカルアセスメント 久留米大学医学部医学科救急医学教授 高須 修 先生 (3) スタッフが知っておかなければならない各種換気モードと特徴について 国立病院機構熊本医療センター救命救急部長 原田正公 (4) 一歩ずつ呼吸管理法 ~医療安全・感染制御・PADマネジメントの観点から~ 山口大学大学院医学系研究科救急・総合診療医学教授/ 医学部附属病院先進救急医療センター長 鶴田良介 先生	
14日(日)		
15日(月)		
16日(火)	19:30~21:00 第59回 熊本摂食・嚥下リハビリテーション研究会 「薬と摂食嚥下~薬のいい作用と悪い作用~」 熊本リハビリテーション病院リハビリテーション科部長/医師 齊藤智子 先生	
17日(水)		
18日(木)	14:00~15:30 第76回 市民公開講座 「便秘のはなし」 国立病院機構熊本医療センター消化器内科副部長 中田成紀 19:00~20:45 第200回 三木会(糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座 1.0 単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]	
19日(金)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 18:30~20:30 血液研究班月例会	
20日(土)	13:00~15:30 第153回 公開看護セミナー 「患者の食べる力を支える看護師の役割」 国立病院機構熊本医療センター摂食・嚥下障害看護認定看護師 田平佳苗	
21日(日)	13:00~17:00 第33回 臨床薬理セミナー [日本医師会生涯教育講座 4 単位認定] 「臨床推論 患者の症状、病態から考える薬剤師になるために」 (1) 症状、病態から考える臨床推論 医療法人 朝日野会 朝日野総合病院内科 清川哲志 先生 (2) 医薬品情報を活用した臨床推論 熊本大学病院薬剤部 山下諒祐 先生 (3) 患者さんのために薬剤師ができること ~臨床推論を駆使して真のチーム医療の一員になる~ 東京医科大学病院薬剤師部 東加奈子 先生 (4) 新たな医療の時代へ!“薬”を中心として現場で臨床推論を活かすためには -適正使用における薬剤師の役割- 北海道科学大学薬学部客員教授(臨床推論) 岸田直樹 先生	
22日(月)		
23日(火)		19:00~21:00 小児科火曜会(研1)
24日(水)	19:00~20:30 第135回 総合症例検討会(CPC) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] 「難治性気管支喘息として治療中にショック状態となった80代女性」	
25日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー	
26日(金)		
27日(土)	15:00~17:30 第23回 診断と治療 -最新の基礎公開講座- 「血球増加症の診断と治療の進歩」 [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] 座長 新町いえむらクリニック 院長 家村昭日朗 先生 1 血球増多を見たとき考えること 国立病院機構熊本医療センター血液内科医長 三井士和 2 慢性骨髄性腫瘍とは 国立病院機構熊本医療センター血液内科副部長 榮 達智 3 慢性骨髄性白血病の診療について 熊本保健科学大学保健科学部医学検査学科教授 川口辰哉 先生	
28日(日)		
29日(月)		
30日(火)		
31日(水)		

研1~3 2階研修室1~3

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ (<https://kumamoto.hosp.go.jp>) をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号
TEL(096)353-6501(代)
FAX(096)325-2519
連携室直通TEL(096)353-6693
連携室直通FAX(096)323-7601